

# Rapport

2020  
Number

111

多摩大学 | 広 報 誌 |

## Vol.111 Contents

2019年度秋学期 成績優秀者 .....	02
学生インタビュー .....	02
多摩大学後援会 .....	03
秋卒業式/秋入学式 .....	04
秋学期開始 .....	05
グローバルスタディーズ学部シンポジウム 報告 .....	06
多摩大の志「卒業生インタビュー」 .....	07
【訃報】学校法人田村学園 田村邦彦学園長 逝去 .....	08
多摩地域の名所・旧跡⑧【禅寺丸柿】 .....	08

## 2019 年度秋学期 成績優秀者

### 2019 年度 秋学期 成績優秀者奨学金奨学生

学業及び成績が優秀で人物及び健康ともに優れ、他の規範となる学生に対して、多摩大学奨学金規程に基づき審査を経て区分に応じた奨学金を支給しています。

#### ●経営情報学部

##### ■ 1 年次 ・区分 1

学生氏名
内田 慎吾
佐々口 珠莉

##### ・区分 2

学生氏名
安藤 麻沙未
石川 光一
伊豆 隆磨
大澤 舜
倉林 さくら
小林 明日香
佐々木 秀崇
杉山 直哉
塚本 朝日
名古 翼
野田 千智
濱 大貴
初田 有哉
茂木 香樹
吉井 理人
林 舞輝

##### ■ 2 年次 ・区分 1

学生氏名
光瀬 千翔

##### ・区分 2

学生氏名
石原 混大
磯部 直樹
今平 竣也
大野 将来
小川 悠介
木下 拓海
佐保 尚寿
庄司 剛
白井 ほのか
ソウキョウ(宋嬌)
西岡 大翔
伏見 凜久斗
味蓼 恵月
村田 月夜
矢田 碧人
山本 啓介
ラウ 佐光マシュー
和田 彩佳

##### ■ 3 年次 ・区分 1

学生氏名
上岡 萌絵

##### ・区分 2

学生氏名
アイティゴール(艾麗譚剛)
荒兼 悠人
市川 駿
伊藤 優
小田島 功弥
久津間 晴夫
小泉 歩美
小林 史明
酒井 祐菜
末廣 星流
ソウマイゲツ(曹邁月)
田口 光
田中 梓
馬場 明仁
三浦 麻子
谷萩 優一
吉田 桃子
米盛 裕香
ラゴエン(羅語嫣)

#### ●グローバル・スタディーズ学部

##### ■ 1 年次 ・区分 1

学生氏名
関口 楓

##### ・区分 2

学生氏名
内田 璃紀
小山田 桜
川口 愛未
齋藤 達哉
杉本 柚果
戸塚 涼
芳賀 京佳
横山 紗弓

##### ■ 2 年次 ・区分 1

学生氏名
吉村 優梨亜

##### ・区分 2

学生氏名
遠藤 日向
開田 旭
鹿島 旭恵
Jallais Babara Anastasisa
内藤 歩
野間 海斗
林 陽人
ヘルザー カレン美蔵マリア
渡邊 菜央

##### ■ 3 年次 ・区分 1

学生氏名
川上 理沙

##### ・区分 2

学生氏名
浅川 七彩
泉谷 勇斗
川上 紗耶
佐藤 陽奈
西川 貴洋
堀越 友梨香
吉田 麻菜
吉田 里香
四本 愛妃

※氏名 50 音順

※学年は 2019 年度のものとなります

## 学生インタビュー

### 貴重な体験ができる 4 年間

グローバルスタディーズ学部 4 年  
アドキンス フェリーシャ 花

SGS では語学の習得はもちろん、留学制度も充実しています。また、一番の魅力は先生と学生の距離が近いことです。

サークル活動は、Zion's Club に所属していました。

Zion's クラブはボランティア活動を主に、貧困国への住居建築・募金活動・カンボジアへの物資支援・東北（被災地）へのコミュニティ支援活動を行っています。

インドネシアで行った住居建築では、建物の土台整備から、レンガの積み上げなど様々な建築作業に携わりました。

建築活動は体力と根気を要しますが、ホームオーナーのご家族や地域の子供たちと触れ合うことができる喜びを感じられ、発展途上国に生きる人々の生活水準を支える貴重な経験ができたと思います。

また、地域を活性化させたいとの思いから、湘南地域でのゴミ拾いや他大学との交流活動にも積極的に参加しました。

グローバルといえる活動を通して、英語力、コミュニケーション能力、チームワーク等の面で成長できたと思います。



サークル活動



地域活動 (I love 湘南)



Zion's club

## 〔経営情報学部(SMIS)〕 後援会役員会

2020年9月5日多摩キャンパスにて、「経営情報学部 後援会役員会」を開催しました。当初、5月16日の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により、3ヶ月以上延期せざるをえず、後援会役員の皆様にはご心配をおかけしました。

冒頭、経営情報学部の現況報告が杉田文章 副学長兼学部長よりありました。春学期の振り返りではコロナ禍で、入学式が挙行できなかったこと、授業開始が1ヶ月遅れたこと、Zoomを利用したオンライン授業の状況等の説明がありました。秋学期の展望については、全講義対面式授業を実施することに関して、保証人の方々に理解を求めるとともに、感染拡大状況によってはオンライン授業に移行する準備を整えている旨、説明がありました。

議事は、第1号議案（2019年度事業報告・決算報告）、第2号議案（2020年度事業計画・予算）、第3号議案（2020年度後援会役員を選任）について審議し、承認されました。

役員会終了後、経営情報学部の現況として、教務課よりオンライン授業の実施および対面式授業移行の様子、キャリア支援課よりオンライン面接等企業の採用活動の変容とサポート状況、学生課よりコロナ禍の課外活動、留学への影響等についての説明と、後援会からの補助について御礼がありました。



## 〔グローバルスタディーズ学部(SGS)〕 第12回後援会定期総会

2020年8月29日 湘南キャンパスにて、「グローバルスタディーズ学部 第12回後援会定期総会」を開催しました。総会に先立ち、SGSの現況報告が安田震一 副学長兼グローバルスタディーズ学部長ならびに教職員よりありました。

### ○後援会定期総会

第1号議案（2019年度事業報告・決算報告・監査報告）、第2号議案（2020年度後援会役員を選出）、第3号議案（2020年度事業計画・予算）について審議し、承認されました。

### ○SGSの現況

#### ・安田震一副学長兼グローバルスタディーズ学部長

コロナ禍の学内活動について、①「志スタートアップ」の授業を7月に対面にて行い、1年生の横のつながりを作った、②地域連携活動（多言語メニュー作成支援プロジェクト、藤沢市民講座）が動き出したとの報告がありました。また、在学生や卒業生の活躍状況、在学生のTOEIC点数の状況報告がありました。

#### ・キャリア支援

コロナ禍により激変した就活環境、学生が就活に向けて準備をしておくべきこと、2年次での正課インターンシップに始まり、3年次でのキャリア支援講座、サービス・エアライン講座など充実した就職支援体制に関する説明と、保証人の皆様をお願いしたいことなどについて、堂下就職委員長、大嶋キャリア支援課長より話がありました。

#### ・留学プログラム

SGSの留学プログラムは、HOP（海外研修）、STEP（短期留学）、JUMP（長期留学）の流れになっていることが説明されるとともに、各ステップの留学（研修）期間、費用、付与される単位、留学準備のスケジュール等について、張国際交流委員長より説明がありました。また、2019年度の留学実績と海外協定校の報告がありました。

#### ・春学期の授業を振り返り

コロナ禍により、春学期はZoomによるオンライン授業としたことに伴う、事前準備、教員及び学生の対応、オンライン授業のメリットとデメリットについて、学生の意見・感想を交えた報告が廣田教務委員長よりありました。

また、秋学期は対面授業にすることが説明され、保証人及び学生の皆さんへのご理解とご協力をお願いされました。



## SMIS・SGS 秋卒業式／SGS 秋入学式

2020年度9月19日に多摩キャンパスにて経営情報学部（SMIS）卒業式、26日には湘南キャンパスにてグローバルスタディーズ学部（SGS）卒業式が執り行われました。

天候にも恵まれ過ごしやすい季節の中、合計13名（経営情報学部5名、グローバルスタディーズ学部8名）の卒業生が学び舎を巣立っていきました。

今年は新型コロナウイルス感染拡大防止を第一に考慮して、会場入り口では手の消毒を行い、参列者、登壇者ともに全員がマスクを着用し、距離を空けての着席となりました。

卒業生の皆様には、今後、さらに大きく飛躍し、多方面で活躍されることを祈念しています。



経営情報学部 秋卒業式



グローバルスタディーズ学部 秋卒業式



また、グローバルスタディーズ学部では、9月18日に秋入学式を挙行し1名の留学生が入学しています。本学ならではの和やかでアットホームな雰囲気での入学式で新入生を迎え入れました。



グローバルスタディーズ学部 秋入学式



## 秋学期開始

9月より秋学期が始まり対面の授業科目を履修する学生がキャンパスに集いました。

春学期は遠隔授業と一部対面授業を併用してきましたが、秋学期は新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を十分に講じて、対面授業を基本方針として実施することになりました。(状況によりオンライン受講の申請を認める体制をとっております)

キャンパスには多くの学生が通学し、活気が戻ってきました。

春学期はモニター越しに顔を合わせていた友人と学内で会うことができ、嬉しそうに談笑する姿が見受けられました。



経営情報学部 秋学期開始

また、グローバルスタディーズ学部では、秋学期のオリエンテーションが行われました。例年は4月と9月、各学期の始まる前にオリエンテーションを実施しております。しかし、今年は新型コロナウイルス感染防止の影響で4月のオリエンテーションが中止となったため、今回は4月分も含めた内容となりました。

春学期の授業はオンライン中心であったため、秋学期の対面授業開始のキックオフともなるイベントとなり、一部のオンライン受講者を除き、例年より参加学生も多く、熱心に受講していました。1年生にとっては、入学後、通学する機会も少なかったため、これからの大学生活への希望と期待を抱いて参加したオリエンテーションとなりました。



グローバルスタディーズ学部 オリエンテーション

感染防止にあたっては、構内各施設には、アルコール消毒液やアルコールシートの設置、教室の座席指定、学食のテーブルにはアクリル板を設置、各施設にソーシャルディスタンスの確保等の三密回避の掲示、マスクの着用を義務付け、入退室管理等の感染対策を通じて、飛沫感染予防をすると共に、一人ひとりの意識啓発に努めていきます。



自動検温器設置



食堂のアクリル板設置

## 「ポストコロナへの指針 日本再生の基軸を考える」

2020年10月16日、藤沢商会館ミナパークにて、グローバルスタディーズ学部主催のシンポジウム第9弾として、「ポストコロナへの指針 日本再生の基軸を考える」を開催、鈴木恒夫藤沢市長を始め行政関係者や市民など多くの方々の参加がありました。

今回のシンポジウムは、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により日々の生活を省みる今だからこそ知るべきキーワード「コロナとの共生」「全員参加型秩序」を軸に、参加者と一緒に地域の今後を考える内容となりました。本学においてもインターネットによるオンライン授業を中心に展開してきましたが、教育の質や学生が求める横のつながりも重んじながら、3密回避を徹底して対面授業を少しずつ再開するなど、コロナと上手に共生していくことが現在の最重要課題となっています。開催に際しては感染予防対策として、マスクの着用、受付での手指の消毒、検温、入場者数の制限、会場内では座席の間隔を広げたソーシャルディスタンスの確保などを行いました。

開会挨拶で安田震一 副学長(兼)グローバルスタディーズ学部長は、「通常は藤沢市の観光インバウンドなど藤沢市を盛り上げる内容ですが、今年は新型コロナの影響を見据えた社会がテーマ。多摩大学は今後も藤沢市とともに考え、湘南地区の発展に寄与していきたいと思っています」と市政80周年へのお祝いと感謝の言葉を述べました。鈴木恒夫藤沢市長は「藤沢市はパラリンピックでポルトガルチームのホストタウンであり、本日の新美学科長の講演は楽しみ。皆さんと気持ちを合わせてアフターコロナに対応していきたいと思っています」と挨拶しました。新美潤 グローバルスタディーズ学科長は、講演「移動と交流ーポルトガルを例としてー」で、駐ポルトガル大使時代の豊富な体験、政治経済情勢、日本との歴史的な結びつき、豊かな食や世界遺産、海の観光政策などポルトガルの魅力と最近の情報を紹介しました。また、寺島実郎学長は基調講演「ポストコロナの世界と日本ー新しい視座を求めてー」において、コロナで得た最大の教訓は「日本の情報環境が大きく歪んでいる」ことであり、「自分自身の回路で情報を得ることの大切さ」、「どのように本当の情報を得るのか、学びの拠点を作ることが地域社会にとって重要」と語り、資料集(特別版)『寺島実郎の時代認識 2020年秋号』を参照しながら、日本経済の現状、世界のGDPシェアの推移、全国の食料自給率などについて数値やグラフをもとに最新状況を講じました。



手指のアルコール消毒



検温の様子



会場入口の掲示板



安田震一 副学長(兼)学部長



鈴木恒夫藤沢市長



新美潤学科長



寺島実郎学長



寺島実郎学長による講演



会場の様子

# 卒業生インタビュー

高い志をもって社会で活躍している多摩大学の卒業生たち。彼らが大学で身につけた力、その力を社会でどう生かしているか？卒業生たちの姿を通して、多摩大学で養われる力に迫ります。

※所属や肩書などは取材当時のものです。

岡三証券株式会社 八王子支店 証券コンサルティング1課 村木 一美 経営情報学部 2017年卒業

## Profile

2017年3月多摩大学経営情報学部を卒業。フェイス・トゥ・フェイスを基本に、総合的な資産運用を提案する岡三証券株式会社へ入社。所属する八王子支店では、顧客のライフプランに合わせたコンサルティングサービスを提供し、国内外の金融商品を販売するリテール営業で活躍が期待されている。

## 誰かではない、自らが発信し人に影響を与える存在になる

### 学生時代に取り組んだこと

経済や投資に詳しい父親から、多摩大学には、高名な寺島実郎学長のもとで学べるなど、優れた教育環境があることを教えてもらい、それが大学選びの決め手になりました。入学間もない1年生の時に、寺島実郎学長の出版書籍の記念パーティに参加し、芸能人や各界の著名人が参列する光景を目の当たりにして、その交友関係の築き方に強く興味を抱くようになりました。4年間を通じて学んだのは、見返りなど関係なく、相手を心から思いやって行動できることが、本当の人脈であり自分の財産であるということです。社会への使命感や責任感、進んで行動を起こす主体性、今まで気がつかなかった“視点”が増えたときに自分の成長を実感することができました。毎週土曜日に寺島学長直轄のインターゼミに参加することは、他の学生よりも週に1日多く学びの機会を得ることで、その1日の積み重ねが絶対的な自信につながりました。私の場合はゼミ中心の4年間でしたが、学問に限らず何かひとつこれを頑張ったと胸を張れる経験を積むことが大切だと思います。



### 社会人になって思うこと



独立系の証券会社を中心に就職活動をしていた際、岡三証券の商品販売に対する考え方や社風に共感を覚えて入社を決めました。1年目に配属された福岡支店では、初めて大口の新規顧客開拓に成功し、そのお客さまが購入した米国株が大きな利益を出したことで、株式投資で利益を出す喜びを知りました。社会人になり、多摩大学のゼミで中小企業論やマネジメントを学ぶうちに身につけたゼロから調べる習慣が、投資先の企業を客観的にとらえる視点と、何度でも繰り返し情報収集する力につながっていると感じています。これからは、より専門的な証券コンサルティングを提供するために、金融経済だけではなく幅広い知識の習得に研鑽します。相手を思いやり信頼関係を築くという学びを胸に、法人営業にチャレンジし、金融経済の分野で“自らが発信した情報で他者に良い影響を与える存在”になるというビジョンを描いています。

### 思い出の一枚

#### 「君ならどこに就職しても大丈夫だよ」

岡三証券の内定が決まった後に、インターゼミの懇親会で寺島実郎学長から贈られた言葉と、その時に撮影した写真です。本当にその言葉がうれしくて、自信につながりました。「SNSなどの表面的な人間関係ではなく、その人のために全力を尽くすヒューマンリレーションシップがアセットになる」という教えは、営業に活かされていると感じます。社会人になった現在も、月に一度ゼミに参加し現状を報告しています。



### コレが私のマストアイテム

#### マインドセットと、情報収集に利用

日々の業務に欠かせない名刺入れとノートの写真です。経済指標発表の日程や相場の格言などが記載されていて、お客さまとの会話に使いたり、上司からのアドバイスをメモしたりと重宝しています。入社3年目になり先輩社員のお客さまを引き継ぐ機会が増え、より高度な接客が求められています。まだまだ知識と論理的な説明能力が足りていないので、ノートとともに自分も進化させていきたいと思っています。



(インタビュー：2019年11月実施)

## 学校法人田村学園 田村邦彦学園長 逝去

学校法人田村学園学園長の田村邦彦先生が、2020年7月29日に逝去（享年93）されました。

晩年こそ療養生活を余儀なくされていましたが、その生涯は輝かしいものでした。

田村邦彦先生は、東京大学法学部卒業後、アメリカ合衆国インディアナ大学教育学部大学院を修了され、ご尊父が経営される目黒学園女子商業高等学校教諭として、その後には学校法人田村学園理事を経て、1970年より本学園の2代目理事長に就任されました。この間、日本私立大学振興協会理事等教育改革に幅広く携わり、1983年には、藍綬褒章を受章されています。

多摩市聖ヶ丘の地に、多摩大学が開学できたのもひとえに邦彦先生の教育への情熱があったからに他なりません。50年の長きに渡り、本学園の発展や私学教育に情熱を注がれ、時代の趨勢に合わせ学園を改革・拡張されて来られました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げますとともに皆様にご報告いたします。



### 地域再発見

#### 多摩地域の名所・旧跡 ⑧ 禅寺丸柿 (川崎市)

#### 王禅寺の庭に残る日本最古とされる甘柿の原木

川崎市麻生区せいしゅうくざんの星宿山王禅寺は延喜21年(951)に高野山三世無空上人が開山したとされる真言宗豊山派の寺院です。建保2年(1214)、この寺の山中で日本最古の甘柿といわれる「禅寺丸柿」が発見されました。寺は新田義貞の鎌倉攻めの戦いで焼失しましたが、応安3年(1370)、等海上人が再興しました。その際、裏山で赤く熟した甘柿を見つけ寺の境内に植え、近隣の人々にも栽培を勧めました。江戸時代には人気の品種として市場に多く出荷されるようになり、地名から「王禅寺丸柿」と命名され、元禄時代には略して「禅寺丸柿」と称されるようになったと伝わります。明治22年(1889)町村制の施行で誕生した「柿生村」(現在の川崎市麻生区)の地名は禅寺丸柿の収穫量が多いことに由来、昭和2年の小田急線開通後は「柿生」駅から大量の禅寺丸柿が出荷されました。柿生村では最盛期の大正10年(1921)生産量938トンの記録が残りますが、その後は新品種の登場により衰退します。平成19年、7本の禅寺丸柿(王禅寺の境内の原木1本、民家の柿の木6本)が国の登録記念物に指定、「かながわの名木100選」、川崎市の「まちの樹50選」にも選定されるなど現在も大切に継承されています。



王禅寺境内の禅寺丸柿原木(左)、本堂(右上)、果実(参考)

※多摩大学において「多摩地域」とは、多摩川と相模川に挟まれた大きな三角地帯、さらに三浦半島なども含めたエリアを広域多摩地域と捉えています。